

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ナノデス・アキュライズⅧ	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.522	△RG	0.056	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：アキュライズⅧ

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

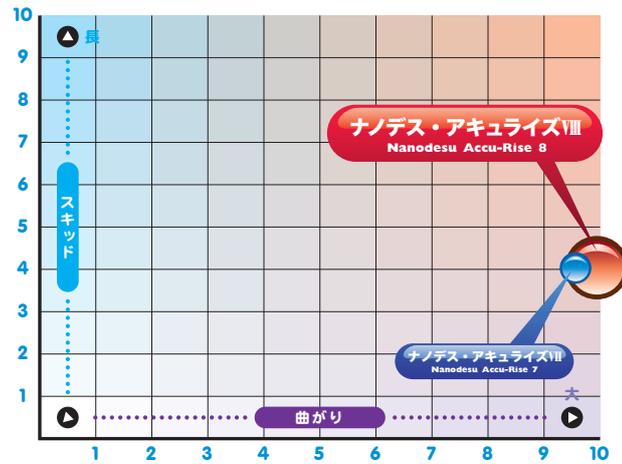
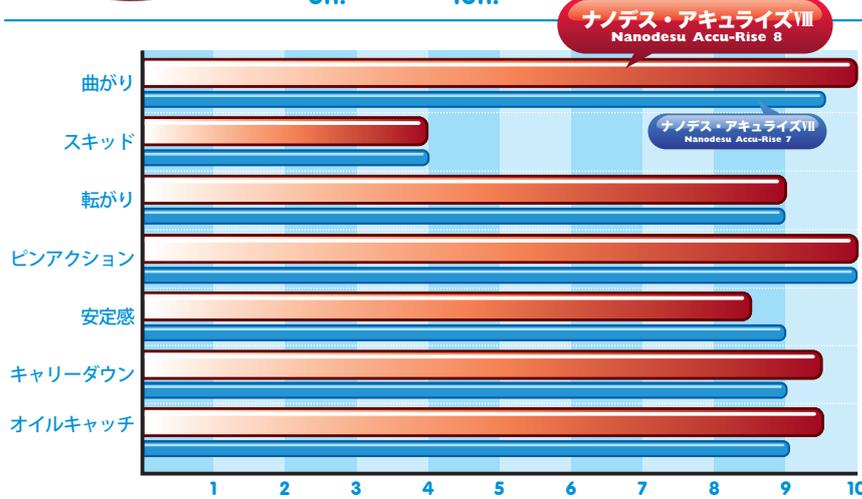
比較対照ボール：アキュライズⅧ

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



ボールの評価

アキュライズシリーズプレミアムから採用された日本エポナイトの独自製法のNano-Thanカバーストック。海外でも採用されていない唯一無二の製法はさらに進化を遂げており、領域(2.0~6.0)とPearl Hybrid、Solidの素材を組み合わせることで様々なパフォーマンスを生み出すことができます。

今回のアキュライズ8は、今までのNano-Thanで初めての4.0領域のHybrid素材とMidからの動きの強さと、中盤から後半にかけて転がり感が増して感じるVGI Max Coreを採用した、安定感というよりはアグレッシブなリアクションが主になったボールのスペックで発売です。

私は今回採用されているVGI Max Coreは非常に好きで、modifyされていますが同じコアを採用していたアキュロールやアキュライズ4は凄く気に入って長い間使用していました。気に入るポイントは二つあって、Midで一度曲がり始めが見えますが、そこから曲がり始めてまた最後強く曲がるという、二段階で曲がるイメージをこのコアには持っています。

当然今回のアキュライズ8にもその印象がでており、安定感かつアグレッシブにピンヒットまで駆け抜けるリアクションは発揮されていると思います。前回発売されたアキュライズ7はどちらかと言えば安定感を主としており、丸みのある曲がりでありながらフリップ状のリアクションでしたが、アキュライズ8は軸の起き上がりが明確に見えるやや角がでる動きと言えます。軸移動が明確に強くでる傾向はヒッティングパワーにも伝達され、ナノデス特有の柔らかく低いピンキャリーとの連動は、これこそナノデスと唸らせるものだと思います。「最後のひと動きの強さ」がアキュライズ8の最大の売りであり、開発コンセプトです。

アキュライズシリーズで一番アグレッシブなアキュライズ8はきっと皆さんの強力な武器となってくれるはずです。

特記事項

先の動きに実績のあるVGI Max CoreにNano-Than4.0 Hybridを組み合わせることでスキッドとキャッチが高いレベルで融合されています。国産だからこそ日本で好まれるボールが作れるブランドがナノデスと言えるでしょう。